

生活クラブ生活協同組合・松戸プリムラの会

パネル1【暮らしの中のマイクロプラスチック】

●わずか70年間で『プラスチック危機』？

私たちの暮らしの中で、プラスチックが使われ始めたのはわずか100年前です。そして第二次世界大戦において武器開発のためにプラスチック研究が進み、戦後はあらゆる分野でプラスチックの利用が進みました。最初はおもちゃに使われていましたが、その後キッチン用品や日用品へ、繊維化されて衣料品へ、自動車や機械部品へ、そして建築材まで、この70年間で膨大な量のプラスチックが作られ、使われてきました。今、大問題になっているのが容器包装用を始めとする使い捨てのプラスチックとマイクロプラスチックです。

日本でも、レジ袋の有料化が始まり、「容器包装法」によりプラスチックのリサイクルも行っていますが、その9割近くは燃料として、焼却されています。

●地球沸騰化を止めるために！

「地球温暖化」どころか「地球沸騰化」の時代に入ると、国連のグテーレス事務総長が宣言しましたが、この夏の猛暑や大型化する台風など、人為的化石燃料の大量使用による『気候危機』が問題となる中、プラスチックの焼却は二酸化炭素を増やします。世界では「リサイクル」と認められていません。

●マイクロプラスチックの海洋汚染が深刻！

プラスチックは分解されて土(自然界)に戻りません。世界中の国から、世界中の海に大量のプラスチックが流れ出て、海中に漂っています。海鳥やウミガメやクジラ・イルカが食べてしまうし、さらに割れて砕かれて小さくなり「マイクロプラスチック」となってエサとまちがえて魚が食べてしまうのです。5ミリ以下に小さくなったもの『マイクロプラスチック』といいます。

●『マイクロカプセル』は使用禁止へ

少し前までは、大きなプラスチックが日光や雨風で砕かれてマイクロプラスチックになるもの、衣料品が洗濯などで削れて小さくなって海へ流れ出るものがマイクロプラスチックのほとんどでした。ところが、今では『マイクロカプセル』という最初から微小のマイクロプラスチックが使われるようになりました。『香害問題』にもなっていますが、洗剤に添加されている香料を入れたマイクロプラスチックです。マイクロカプセルが割れると中の香料が放出されるので長く香りが続くと宣伝されています。もう一つは『一発肥料』というもので、マイクロカプセルに肥料が入っていて、徐々に壊れて肥料が出てくるので、何度も肥料を撒く手間がいらず一度だけで良いというものです。どちらも便利なものですが、海中や土中に多量のプラスチックが放出されることになるため、『マイクロカプセル』を使用禁止とする国が増えています。

●有毒物質が付いている？

「プラスチック」そのものは毒性がなくても、製品化する過程で多くの有毒な添加物が使われているし、プラスチックには海中の有毒物質を吸着する性質があるため、それを食べてしまう魚の汚染が心配されています。その魚を食べることで私たちの身体にもすでにマイクロプラスチックが入り込んできています。

パネル2【マイクロプラスチックのない暮らし】

●自然に還る素材を使う暮らしをはじめよう。

100年前まで、私たちの暮らしにプラスチック製品はありませんでした。土に還る、自然に還る素材で暮らしが成り立っていました。草木や竹、動物の毛や皮、石や土や金属、長い人類の歴史の中で、使われ工夫されてきたものばかりです。今でも使われているものがありますので、プラスチック製品から、少しずつでも天然素材製品を使う暮らしに変えて行きましょう。

●使い捨てプラスチック、マイクロプラスチックの使用を止めよう！

しかし、プラスチックは安くて、軽くて、カラフルで、密封度が良く、今では強度もあり、伝導性のプラスチックまでも生まれてきました。あらゆる分野で使われているプラスチックですので、全部の使用をすぐに止めてしまうのは無理ですが、まず、『使い捨てプラスチック』『マイクロプラスチック』は止めようという動きが始まっています。

●SDGsでプラスチック削減をめざそう！

持続可能な開発目標『SDGs』の、目標の12番『つくる責任 つかう責任』では、「2030年までに廃棄物の発生を防止、リサイクル、再利用によって大幅に削減する。」とされ、目標の14番『海の豊かさを守ろう』では、「2025年までに海洋ゴミや富栄養化を含むあらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。」として、世界中でプラスチック削減に取り組んでいます。

●生活クラブのプラスチック対策は！

生活クラブでは、その設立以来、リユースビンを使ってきました。『グリーンシステム』と呼んでいます。醤油もソースも牛乳もジュースもリユースビンです。マヨネーズもケチャップもリユースビンに入っています。8種類のリユースビンで対応できないものは、ワンウェイビンやリサイクルできる缶や紙を使用しています。

昭和の日本ではリユースビン使用が当たり前でした。醤油も酒もビールも牛乳もリユースビンでした。ジュース等に缶も多く使われてきましたが、次々と使い捨てのプラスチックボトルに変わってきたのです。リユースビンは重いし、割れるし、回収するのも大変ですが、生活クラブではプラスチック削減のためリユースビンを使い続けています。

また、卵は量り売りでしたが、パック売りに変わる時に「紙パック」を採用しまし

た。ヨーグルトや納豆も紙容器、野菜なども、できるものは紙包装で行っています。

新しくは、石けん類の量り売りの取り組みが始まりました。米の栽培ではマイクロプラスチック肥料を使わない生産方法を試行したり、包装材については生分解性のプラスチックへの転換に取り組んでいます。